



狩野 兵庫県淡路島の中央、洲本市にある一般社団法人ファミリーケアセンターMOM（ママ）さんが運営する助産院MOM。こちらはお産を取り扱わない助産院だそうですね。アットホームな雰囲気の一軒家で、産前産後ケアが受けられる施設かどうかがありました。まずは、岡垣代表の歩みをお聞かせください。

岡垣 私は2000年頃に、大阪府からこちらの淡路島に移ってきました。そして、勤めていた市役所で母子保健の担当となり、助産師としてママさんたちをサポートする忙しい毎日を送っていましたね。やりがいがあったものの、一人ひとりのママさんと丁寧に向き合うには時間が足りないなと感じるようになりました。



インタビューー 狩野恵輔（野球解説者）

狩野 そこで、この施設を立ち上げられたのですね。

岡垣 ええ。また、洲本には安全にお産ができる病院がありますから、あえてお産にこだわらず、産前産後のケアや子育て支援ができる助産院を立ち上げ、幅広く皆様を支えていければと考えたんです。そこで、昨年2022年10月に法人を設立し、今年2023年3月に産前産後の対応ができるケア施設を開院しました。

狩野 確かに最近、マタニティブルーや産後うつなど、産前産後のメンタルヘルスが注目されるようになってきています。不安を抱えるママさんたちにとって、まさに望んでいたサポート施設だと言えますよ。ちなみに、MOMさんではどのようなケアや支援が受けられるのでしょうか。



岡垣 宿泊型や通所型、ご自宅を訪れる訪問型などママさんのご要望に合わせたさまざまなケアプログラムを提供しています。産後は出産の疲労もありますし、頻回授乳でまとまった睡眠が取れないママさんが多いんです。ですから、ゆっくり休んでいただくため、赤ちゃんや上のお子さんのお世話をすることもあります。ほかにも、淡路島の幸を使った美味しいお食事の提供やエステや整体まで、ママさんがリラックスして過ごせるサービスをご用意していま

すよ。

狩野 助産師として女性に寄り添うスタンスに岡垣代表の信念を感じます。ちなみに、いつ頃から助産師を志されていたのですか。



岡垣 中学校に来てくれた助産師さんの話を聞き、お母さんより先に赤ちゃんを抱っこし、命のバトンを受け渡す存在を知りました。すごく素敵だなと思い、それから助産師を目指し、資格を取得したんです。助産師として学校で講演会をするようになり、その私を見て同じように助産師を志してくれた子がいるんですよ。実は今、その子が仕事を手伝ってくれているんです。

狩野 何だか素敵につながりですね！

岡垣 本当にありがたいことだと感じています。活動を通じ、命の素晴らしさや命を育む女性のライフスタイルについても深く考えるようになりました。そこで私たちの施設では、ママさんだけでなく女性の皆様が居心地のいい環境を整え、サポートできる体制を整えています。思春期のお子様のこと、不妊・更年期などで心身にゆらぎを抱えた方まで幅広くお話をうかがっていますよ。

狩野 まさに、女性の駆け込み寺ですね。さまざまな悩みを抱える女性にとって、岡垣代表の存在は心強いと思います。



岡垣 ありがとうございます。これからは女性を含め、皆様がお互いを思いやる場、コミュニティとして地域に貢献できればと考えていますね。その一環として、ご夫婦で学ぶセミナーなども開催しています。育休を取る方も増えているものの、実は育休を取得しても何をしたいかわからないパパさんが多いんです。制度だけ整えるのではなく、夫婦間のコミュニケーションの取り方を知ってもらえる機会をつくるお手伝いもしていきたいですね。

狩野 子育てに関しては、男性はまだまだ気付けない部分は多いかも知れませんが、私の場合、無理に不得手なことをするのではなく、得意なことでサポートするように努めましたね。しっかりコミュニケーションを取ることで、奥さんも納得してくれて役割分担ができたように思いま

す。国は子育て支援を掲げ、手当や給付金での支援を打ち出すだけでなく、出産や育児の楽しさをもっと伝えるべきだとあらためて実感しました。5人の父親として、私からも子育てのおもしろさを伝えていきます！